



特集 ヒロシマ2009

ヒロシマとイラク

オバマ米大統領が核兵器の廃絶を宣言したことは、私たちに勇気を与えてくれました。ということで、広島は盛り上がっているだろうと思い、早速平和祈念式典に行ってきました。しかし、その一方で忘れ去られようとしているのがイラクです。でもイラクほど、核の問題と密接に関係し、一般市民が犠牲になった国は、他にないでしょう。

原爆投下で殺された人は広島、長崎で21万人を超えています。イラク戦争の犠牲者は、10万人～65万人というところでしょうか？ 太平洋戦争は、国同士の覇権をかけての戦争でした。朝鮮戦争やベトナム戦争はイデオロギーの戦争でした。しかし、イラク戦争の開戦理由のひとつは、核兵器などの大量破壊兵器の保持、開発の疑惑でした。核兵器を使用されて多くの人が犠牲になった日本と、疑惑だけで攻撃され、大量の犠牲者がいるイラク。なんとも皮肉です。しかも、劣化ウラン弾という、核燃料サイクルから出る放射能廃棄物から作られた兵器でイラクは攻撃され、放射能で汚染され、がんの子どもが増え続けるという「おまけ」付きです。

来年ニューヨークで開催されるNPT(核拡散防止条約)の再検討会議が注目されています。2005年はブッシュ大統領が、核兵器の削減にも応じず、CTBT(包括的核実験禁止条約)の批准もせず、それどころか、使用可能な小型核兵器の開発を謳うなど、何ら成果が得られない結果となりました。それだけにオバマ大統領に期待がかかります。

しかし、核兵器の廃止だけではだめです。NPTは、軍縮会議と同時に核の平和利用としての原発を推進しています。平和利用をどう管理、監視するか、イラクでは国連の査察(IAEAによる)が再開継続されていたにもかかわらず、アメリカ・イギリスが中心となり、日本やスペインの支持を取り付け、戦争という手段をとってしまいました。原発の廃棄



8月6日 広島平和祈念式典



8月6日 広島平和祈念式典

物から劣化ウラン弾という兵器が作られること自体、平和利用とは言えません。NP Tの枠組みで、劣化ウランの禁止のことも議題にしてほしいと私は思っています。

オバマ大統領は「私は、テロリストなどに狙われうるあらゆる核物質を4年以内に安全な管理体制に置くため新たな国際的努力を始める」とプラハで宣言しました。劣化ウランも当然その中に含まれるべきで、そうなってほしいものです。



第6回NO DU(劣化ウラン兵器禁止)全国交流会
マイクを持っているのが佐藤事務局長

広島では、劣化ウランを禁止廃絶しようとしている団体や個人の方が「第6回NO DU(劣化ウラン兵器禁止)全国交流会ーベルギー、コスタリカに続け!次は、劣化ウラン兵器禁止だ!ー」に集まり、ディスカッションができました。そのようすは、現在動画配信中のJIM-NETニュース(<http://blog.livedoor.jp/jimnetnews/>)でご覧いただけます。インターネットをお使いになれる方はぜひ見てください。

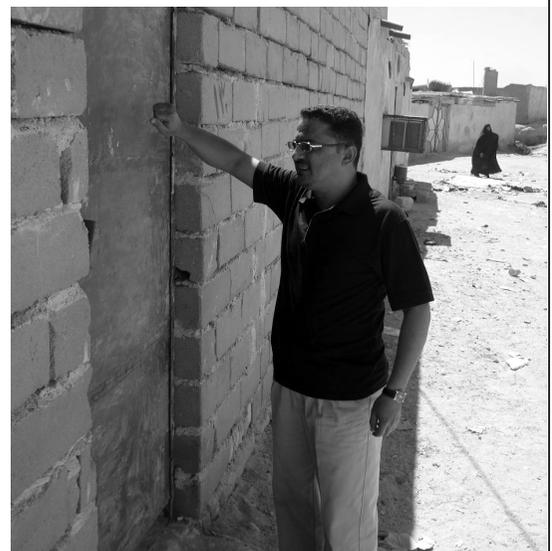
さて今度は現場です。8月7日に広島から戻り、10日には日本を発って、ヨルダン、イラク、シリア

と旅をしてきました。目的は、JIM-NETに構成団体として参加しているJCF(日本チェルノブイリ連帯基金)のスタディツアーのコーディネーションです。

クルド地区のアルビルにあるがんの病院を訪ねたり、国内避難民キャンプや、シリアから国境を越えたところにある砂漠の難民キャンプを訪問するなど、正直、かなりハードな旅となりました。

たくさんのお子どもたちにも会いました。アメリカの空爆や、爆弾テロに遭遇した傷跡がくっきりと残っている子どもたち。そして、父母を殺されて、心の傷を抱え込む子どもたちもたくさんいました。

アルビルでは、バスラからローカル・スタッフのイブラヒムが来てくれました。しかし、いつもは陽気なイブラヒムが、患者のサブリーンの容態がよくないと浮かない顔をしています。5月にバスラで初めて彼女に会ったとき、その姿を目の前にして、彼女が「生きている!」という事実に感動しました。



サブリーンの家を訪ねるイブラヒム



サブリーンの手を引き病院へ向かうイブラヒム

そのサブリーンの容態が悪化し、今は施す治療も抗生剤を与えるくらいだといいます。

彼女は、自分のがんの原因は、アメリカ軍が落としていった爆弾だと思っています。

今回の旅で、あらためて、イラクの人々の苦悩を実感しました。

日本政府は、イラク戦争の開戦時には、核兵器を所有、開発している疑惑があったので、戦争を支持したのは正しかったと主張し続けています。イラクの現状を見ていると、本当に日本は大変なことをしてしまったと思わざるを得ません。イラクから学び変えていく。皆さん、イラクを忘れてはいけません。

佐藤真紀(事務局長)
ドバイの空港にて

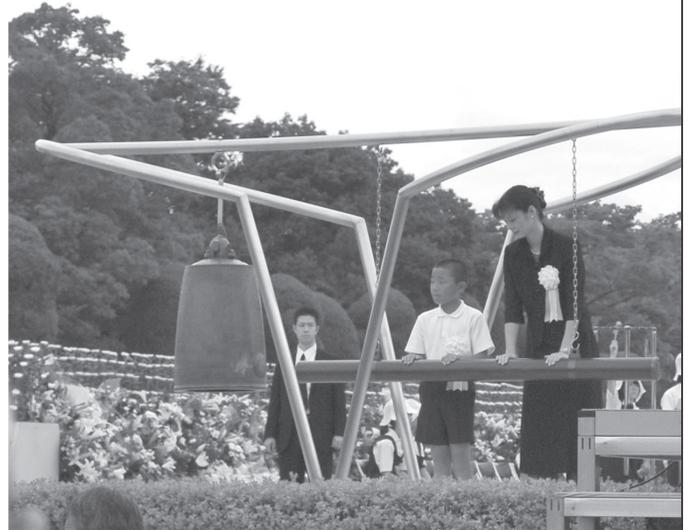
8月6日ヒロシマへ

8月6日午前8時15分のヒロシマを目指して、毎年世界中からたくさんの人々がやってきます。人々がそうしなければならない理由が、64年前の広島での出来事にあることは言うまでもありませんが、それ以上に現在の世界を取り巻く状況が、人々をヒロシマへと駆り立てずにはおかないのかもしれませんが。

今年4月、アメリカのオバマ大統領がプラハでの演説で次のように述べ、初めて核兵器を使用したことの責任に言及しました。

「21世紀には、世界中の人々が恐怖のない生活を送る権利を求めて共に戦わなければなりません。そして、核保有国として、核兵器を使用したことがある唯一の核保有国として、米国には行動する道義的責任があります。米国だけではこの活動で成功を収めることはできませんが、その先頭に立つことはできます。その活動を始めることはできます。」(在日米大使館ホームページから)

プラハ演説以来、世界の核廃絶へ向けた流れは大きく変わりつつあります。日本の被爆者団体もオバマ大統領のプラハ演説を歓迎しています。今年、秋葉忠利広島市長による平和宣言も、オバマ大統領の発言を受け、共に核廃絶へ向けて前進しようという内容のものであることが事前に発表されていました。今年、新しい核廃絶の流れに期待をこめてのヒロシマ入りとなりました。



平和の鐘 (8月6日広島平和祈念式典)

ウラン兵器禁止に向けて(原水禁分科会)

5日の朝一番の飛行機で広島に着くとすぐICBUW(ウラン兵器禁止国際連合)ヒロシマ・オフィスによる「ウラン兵器禁止に向けて(原水禁分科会)」に直行しました。フォトジャーナリストの豊田直巳氏の講演に続き、嘉指信雄ICBUWヒロシマ・オフィス代表から、劣化ウラン兵器廃絶へ向けたこれまでの経緯と、次のような問題の指摘がありました。

「既に禁止条約が成立している対人地雷やクラスター爆弾と違い、劣化ウランによる被害は目で見てわかるような明解なものではないため、その被害が認められにくいという難しさがある。また、劣化ウランという物質が、核兵器の製造過程や核エネルギーの製造過程でもたらされる核のごみであるということで、問題が劣化ウラン弾だけに留まらず、核兵器や原子力発電にも結びつく広範なものになってしまう。このことも劣化ウラン弾の問題を難解なものにしている。」 さらに嘉指代表は、自身が実際に参加した、ニューヨーク州の州都オールバニー市で行なわれたタウンミーティング(市民集会)での興味深い事例を披露しました。タウンミーティングでは、その地域の放射能による健康被害に関する重大な内容が話し合われていたにもかかわらず、全国メディアにはこの問題は取り上げられなかった、言い換えれば、一地域の固有の問題としてしか見られていなかったというのです。

「核兵器や原子力発電に繋がる大きな問題」が「一地域の固有の問題」として片づけられる可能性があるという、メディアの無理解の問題を嘉指代表は指摘したのですが、ここには、劣化ウランに限らず、ウラン鉱山から再処理施設に至るさまざまな核関連施設が抱える問題の本質に関わることが潜んでいます。つまり、「内部被曝」による健康被害ということで繋がっているグローバルな問題が、イラクやボスニアなど、劣化ウラン弾が使用された地域で起きている健康被害、原子力発電所や再処理工場などの核施設周辺の健康被害、ウラン鉱山周辺の健康被害、これらはみんな一地域の固有の問題として片付けられてしまう可能性があるということです。(このつながりを明解に示してくれたのが、運営委員として立ち上げからJIM-NETに関わっている鎌仲ひとみ監督の『ヒバクシャ～世界の終わりに～』です。)

嘉指代表のお話の後、JM-NETが行なっている支援状況について簡単に報告しました。劣化ウランの廃絶が、被害者と手を携えたものでなければならないのは自明のことです。その中でJM-NETの負うべき役割がいかに重要なものであるということを、参加していた皆さんに理解していただけたと思います。



原爆の子の像に折り鶴をささげる人々

秋葉市長とデスコト国連総会議長（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）

6日朝、佐藤事務局長と首都圏のラッシュ時のようにぎゅうぎゅう詰めの市電で原爆ドーム前電停へ。人々の流れにしたがって、元安川沿いの道を歩き、元安橋を渡って、平和公園へと向かいました。

会場に入ると、既に大勢の参列者で席は埋まり、中央最前列には各党党首の姿も見えました。8時になり、式は粛々と進行していきます。原爆が投下された8時15分の黙祷に続き平和の鐘が打ち鳴らされ、秋葉市長の平和宣言がありました。秋葉市長は、核廃絶へ向けたオバマ大統領の姿勢に同調し、核廃絶を求める声は世界の多数派(マジョリティー)であるとして、次のように英語で宣言を締めくくりました。

「We have the power. We have the responsibility. And we are the Obamajority. Together, we can abolish nuclear weapons. Yes, we can. (私たちには力があります。私たちには責任があります。そして、私たちはオバママジョリティーです。力を合わせれば核兵器は廃絶できます。絶対にできます。)」

そして、鳩が放たれ、それに続いて子ども代表の平和への誓いがありました。

その後、麻生首相、藤田広島県知事の挨拶に続き、ミゲル・デスコト・ブロックマン国連総会議長の挨拶がありました。長年アメリカと対峙したニカラグア政府の政治家であり、カトリックの司祭でもあるデスコト議長が、広島でどういうスピーチをするのか、期待と興味を持って言葉を待っていました。デスコト議長のスピーチは、一人の聖職者としての謝罪から始まりました。

「私は、広島及び長崎への原爆投下という人類が他の人間に対してこれまでに犯した二つの最大の残虐行為により命を落とされた方々及びかろうじて生き残った方々との連帯を表明するために来日いたしました。

私はまた、ローマ・カトリック教会の神父及びナザレのイエスの信奉者という個人的な立場から、64年前にこの場所で起きた犯罪に私の教会の者が直接関与したことについて、

日本の全ての兄弟から許しを請うために来日したのです。私の教会したのです。私の教会の名において、私は皆様に許しを請います。」

議長の謝罪は、広島に原爆を投下したエノラ・ゲイと名づけられたアメリカの爆撃機B29のポール・ティベッツ機長がカトリックであったことに由来しています。カトリックの信者であるということだけで、原爆投下という罪にあえて連座しようというデスコト議長の、信念と勇気に満ちた発言は、多くの参列者の共感を得られたことと思います。



デスコト国連総会議長

爆心地ライブ

この時期の広島では、市民団体や広島市をはじめとした様々な運営主体による、たくさんの平和を考え、訴える催しが行なわれていますが、広島のライブハウスにとっても8月6日は特別な日です。OTIS! という地元ではよく知られたライブハウスでは、ミュージシャンの遠藤ミチロウさんの提案で「爆心地ライブ」というタイトルのライブをもう10年以上も続けています。

私事になりますが、遠藤ミチロウさんがまだ山形大学の学生だった頃、山形市のライブハウスや路上で一緒に演奏をしていたことがありました。その後ずっと音信不通だったのですが、昨年、広島の人のおかげで何十年ぶりかで OTIS! で再会するという、ドラマチックな出来事があり、今年は、その知人と「サダコ」・虹基金代表の夜川けんたろうさんと一緒に「爆心地ライブ」を楽しみました。

遠藤ミチロウさんのある歌に「メソポタミアの果てのがん病棟の現実」というフレーズが出てきます。これは言うまでもなくイラクの劣化ウランによる健康被害のことです。何年もの時間を超えて、形こそ違え、昔の音楽仲間が同じ問題に向き合っていること、これはただの偶然ではないと思っています…。

アコースティックギター1本でパンクを演奏する遠藤ミチロウさんは、その激しさばかりが目立ちますが、問題の本質に迫る鋭い目をもつ現代詩人だと私は思っています。

昨年同様今年も、演奏の合間に、イラクの子どもたちのことを話す時間をいただきました。そしてOTIS!からはこれも昨年同様「爆心地ライブ」の収益をイラクの子どもたちへと送っていただきました。

イラクの子どもたちを苦しめている劣化ウラン弾は、原子爆弾や原子力発電の燃料を製造する際のウラン濃縮過程で発生する核廃棄物を原料としたものです。原爆とは異なり、核爆発を起こすものではないので、劣化ウラン弾は「核兵器」の範疇には入らないということになるのですが、放射性物質によって環境を汚染し、体内に取り込むことによって内部被曝を引き起こし、健康被害をもたらすという点では核兵器同様の脅威を持つものと言えるでしょう。

その劣化ウラン弾を廃絶するための運動が世界で少しずつ広がりつつあります。ベルギーとコスタリカでは、既に劣化ウラン弾を禁止する国内法が成立しています。しかしながら、おそらくは世界でも最も劣化ウラン弾というものの認知度が高い日本で、今のところ、政府レベルでの廃絶に向けた動きはありません。唯一の被爆国だからこそ、世界に先駆けて行なわなければならないことが、将来に渡って核による被害者を出さないことへの努力であるとしたら、ただ単に核兵器の廃絶ということに留まらず、劣化ウランの問題や原子力発電の問題も含めたもっと大きな視点で「核」に取り組まなければならないのではないかと、それこそが、広島で、そして長崎で、原爆により亡くなった人々への本当の意味での追悼になるのではないかと、そんなことを考えながら広島をあとにしました。



平和祈念式典の様子を伝える各紙号外

各地でイラクの子どもの絵画展

7月から8月にかけて、JIM-NETが貸し出すイラクの子どもたちの絵が、各地の絵画展や平和関連行事で展示されました。絵画展をローカル紙が取り上げるなど、どの会場も大きな反響がありました。このうち、取材に行ったWEショップ厚木1号店では、店内の壁面だけでなく通りに面したウィンドウにも外へ向けて絵画パネルを展示し、道ゆく人が立ち止まっては絵に見入っていました。



WE21ジャパン厚木 スタッフの皆さん

7～8月に行なわれた絵画展

- 7月4日 東京都目黒区 めぐろパーシモンホール 小ホール
「ヒロシマ・ナガサキ」上映会 (サダコの折り鶴と原画)
主催:NPO法人目黒ユネスコ協会
- 7月18、19日 愛知県豊田市 豊田産業文化センター 多目的ホール他
第22回豊田市平和をねがう戦争展 (絵画パネルセット)
主催:豊田市平和をねがう戦争展実行委員会
- 7月18～25日 鹿児島市 県黎明館講堂、サンエールかごしま
イラクの子どもたちの絵画展 (ポスター)
主催:鹿児島県みんなで平和をつくる会
- 7月19日～8月2日 茨城県取手市 取手市立ふじしろ図書館
地球に生きる子どもたちー平和にくらしたいー (絵画パネルセット 他)
- 7月22～29日 神奈川県鎌倉市 鎌倉駅地下道ギャラリー50
平和を考える パネル展 (原画、ポスター)
主催:鎌倉平和推進実行委員会
- 8月17～22日 神奈川県厚木市 WEショップ厚木1号店
イラク、白血病と闘う子どもたち (絵画パネルセット)
主催:特定非営利活動法人WE21ジャパン厚木 ()

新刊案内 (各書店で発売中)

■ おとなはなぜ戦争するの II イラク編

佐藤真紀・本木洋子 著 (税別 1800円) 新日本出版社
大人が引き起こした戦争で一番苦しむのは子どもたち。

91年の湾岸戦争とその後の経済制裁、そして03年に始まったイラク戦争。劣化ウラン弾、クラスター爆弾、不足する医薬品、イラクの子どもたちにいったい何が起きているのか? 子どもたちの医療支援のNGOスタッフ(佐藤真紀)が、現地で会った子どもたちの身の上而降りかかった戦争を子どもたちの絵と共に伝えます。



イラクで私は泣いて笑う

NGOとして、ひとりの人間として

■ イラクで私は泣いて笑う —NGOとして、ひとりの人間として—
 酒井 啓子(東京外国語大学大学院教授)編著 (税込966円) めこん
 JIM-NETの構成団体の一つで、日本のNGOの草分け的存在の日本
 国際ボランティアセンター(JVC)が創刊した、NGOの現場から世界
 の肉声を伝える「JVCブックレット」の1冊。イラク研究の第一人者
 である酒井氏が、NGOスタッフ、フリージャーナリストと対談。戦
 争で破壊された社会を生きる人々に、私たちは人間としてどう関わ
 ることができるのか。混沌としたイラクの今を、生身の人間同士の
 付き合いから読み解く一冊です。JIM-NET事務局長佐藤真紀との対
 談も掲載されています。



9,10月の関連イベント

■ 9月5、6日 10:30~17:00 横浜国際フェスタ 2009 (パシフィコ横浜 展示ホールB)
 主催:横浜国際フェスタ2009組織委員会 他
 問い合わせ: 045-222-1174 (横浜市国際交流協会内 横浜国際フェスタ2009事務局)

■ 9月5~12日 イラク戦争を見つめた子どもたち —私たちに未来をください—(「第26回 邑楽町平和展」展示企画 邑楽町立図書館) 主催:平和展実行委員会 問い合わせ: 平和展実行委員会事務局 役場福祉課 大野 電話0276-88-5511 内線143

■ 9月8日 15:00~17:00 JCFセミナー 持続可能な未来への意志 (松本中央図書館・視聴覚室) 主催:JCF(日本チェルノブイリ連帯基金) 問い合わせ:JCF (電話)0263-46-4218

■ 9月27日 『ヒバクシャ ~世界の終わりに~』上映会 (松山市 松山コムズ 5階大会議室) 主催:核戦争防止愛媛県医師・歯科医師の会(反核医師の会) 問い合わせ:089-989-2511

■ 10月3日【イベント】NO NUKES FESTA 2009 (東京 明治公園) 主催:「NO NUKES FESTA 2009 全国実行委員会

~皆様のメッセージから~

- 小さな気持ちですがいつも応援しています。
- 平和を切に願います。
- 定額給付金の一部です。役立ててください。
- (サブリーントシャツ)とってもかわいいです。ネコが特にかわいい。

メッセージ、どうもありがとうございます

大きくなった ラナちゃんトートバッグ



ご好評いただいているラナちゃんトートバッグが少し大きくなって登場しました。

素材はデニム地、色は生成りです。

販売価格は一つ2000円(送料別)、収益はJIM-NETの活動に使われます。

お問い合わせとご購入は、(☎ 03-6228-0746)まで

JIM-NET便り 2009年夏号

発行: 日本イラク医療支援ネットワーク

発行日: 2009年8月31日

〒171-0033

東京都豊島区高田3-10-24 第二大島ビル303

info-jim@jim-net.net ☎ 03-6228-0746